

令和2年4月臨時会 文教委員会の概要

日時 令和2年4月30日(木) 開会 午後1時51分
閉会 午後2時39分

場所 第8委員会室

出席委員 木下博信委員長
宇田川幸夫副委員長
高木功介委員、荒木裕介委員、武内政文委員、中屋敷慎一委員、
平松大佑委員、柿沼貴志委員、浅野目義英委員、西山淳次委員、柳下礼子委員

欠席委員 なし

説明者 高田直芳教育長、萩原由浩副教育長、
佐藤裕之教育総務部長、日吉亨県立学校部長、関口睦市町村支援部長、
岡部年男教育総務部副部長、青木孝夫県立学校部副部長、
依田英樹県立学校部副部長、石井宏明市町村支援部副部長、
古垣玲市町村支援部副部長、金子功県立学校部参事兼市町村支援部参事、
栗原正則総務課長、島村克己財務課長、豊田清明県立学校人事課長、
小出和重高校教育指導課長、中沢政人生徒指導課長、
伊藤治也県立学校部参事兼保健体育課長、竹井彰彦特別支援教育課長、
片桐雅之市町村支援部参事兼小中学校人事課長、八田聡史義務教育指導課長、
横松伸二市町村支援部参事兼生涯学習推進課長、案浦久仁子文化資源課長、
阿部仁人権教育課長

会議に付した事件並びに審査結果

1 議案

議案番号	件名	結果
第84号	令和2年度埼玉県一般会計補正予算(第3号)のうち 教育局関係	原案可決

【付託議案に対する質疑】

高木委員

- 1 新型コロナウイルス感染症対策費の中に保健衛生用品の整備とあるが、この整備というのは、文部科学省のガイドラインに沿ったものなのか。
- 2 仮にそうだとしたら、その中では布マスクの配布をうたっているが、不織布マスクは購入しないのか。
- 3 ガイドラインの中では、消毒液の使用に関して教室やトイレなど児童生徒が利用する場所のうち、特に多くの児童生徒等が手を触れる場所、手すり、ドアノブ、スイッチ等は1日に1回以上消毒液を使用して清掃を行うとしているが、学校が再開したら膨大なところを生徒が触ることになると思うが、人間的に可能だと考えて予算を計上しているのか。
- 4 スクールバスの運行費について、特別支援学校の送迎バスはこの予算を使うことで、どのような乗車状況になるのか。見込まれる乗車率の変化をどのように予想しているのか。

保健体育課長

- 1 国のガイドラインでは適時適切にマスクを着用することや、多くの児童生徒が手を触れる場所の消毒あるいは家庭での検温について示されており、国からのガイドラインに沿ったものである。
- 2 布製のマスクに加えて、万が一、児童生徒が学校に持参することを忘れた際を想定して、学校に不織布マスクを購入し、配布する計画である。
- 3 基本的には各教室については担任、それ以外のところについては担任以外の教員が協力して清掃に当たるよう計画している。その際、各学校には必要に応じて学校医や学校薬剤師とも相談しながら清掃に当たるよう指導していく。

特別支援教育課長

- 4 今回補正で計上しているのが、34台の増便になるが、増便前の34台の平均乗車率は87%で、増車することにより平均乗車率が52%に下がり、一定程度の過密緩和が望める。

高木委員

- 1 マスクの配布について、数的には1校どれぐらいを予定しているのか。マスク不足が懸念される中、確保する見込みはあるのか。
- 2 増便によって87%が52%になるということだが、52%というと約半分だが、それでいわゆる3密状態を回避できるのか。ほかにも窓を開けっ放しにするのかや、雨の日はどうするのかなど、いろいろな問題が出てくると思うが、過密に対する対策を教えてください。

保健体育課長

- 1 県立学校については、1校当たり50枚を想定している。また、特別支援学校の肢体不自由、病弱な児童生徒については、毎日使うことを想定して350人掛ける2枚掛ける20日掛ける3か月分の、延べ42,000枚を想定している。確保できるかどうかということであるが、現在、中国の方でも輸出が始まったと聞いている。関係の部局とも相談しながら、1日でも早く確保できるよう努力をしていく。

特別支援教育課長

- 2 スクールバスの通路側に座っている児童生徒のおおむね前後左右に空席を設けることで、児童生徒の過密については一定程度緩和できると考えている。

浅野目委員

- 1 バスについて伺う。3密のような状態でバスが生徒を乗せて走っていることを解消しようとしているわけだが、2台連なって走るというイメージでよいのか。答えはいらないが、そういうことか。そうすると、そもそもバス会社が余計にバスをちゃんと持っているのかということと、ドライバーと添乗員が十分に足りるのかということ、それをちゃんと研究しているのか。
- 2 通常の学級の子供にこっちのバス、あっちのバスとか、そういう感じの指示がうまくいくのとは違い、ストレッチャーに乗っている子、車いすに乗っている子、肢体不自由の子など様々な環境と状態の子がいる。私が聞くところによると、バスの中はシートできちっと覆いつくされていると聞く。日常にいろいろなことがある。嘔吐があったり、排尿があったりと聞いている。そういったことに対して対応とか準備ができているのか。
- 3 特別支援学校に通っている子供たちは環境が変わると、本当に繊細な神経の中で、例えば、運転手や添乗員、バスがいつもと違うなどの理由でバスに乗りたがらないということが十分想定できるのではないかと推認される。5月31日まで休業だから、6月1日から7月21日までのこの期間に、予測する様々な事態に準備が整っていて、この議案が出てきているのか。

特別支援教育課長

- 1 今回、急な要請ということもあり、現在契約を結んでいるバス会社に確認をしたところ、34台については準備できるとの話である。運転手と添乗員については、やはり慣れている方、あるいはバス内での指導について長けている方が必要になるかと思うので、その辺についても現在、バス会社の方と調整をしているところである。
- 2 どんなバスでもいいということではなくて、例えば排尿に対応できるようなシートの改造等も含めて、お願いをしているところである。
- 3 添乗員だけでなく、慣れた担任と一緒に乗車させるなどの対応を考えているところである。

荒木委員

- 1 スクールバスの運行費について、約1億3,700万円計上しているが、当初、執行部の説明では、5月から7月21日までの間の予算計上ということであった。今月28日に5月末までの休校が決まり、予算の計上とはずれが生じる。5月分の予算が浮いてしまうことが予想されるが、それについては繰り越しをすとか、こういった扱いになるのか。
- 2 マスクの発注先の企業はどのような選定方法で決めたのか。また、マスクの配布時期はいつ頃を予定しているのか。休校が決定し、本来であれば5月7日以降配ることが予想されたが、休校が5月31日まで延長したので、その1か月間で、本来であれば届いているはずのマスクが、生徒たちが登校しないことによって届かないことも予想される。そうした際に、例えば自宅に郵送するなど、配布方法はどうするのか。
- 3 国のガイドラインに沿って保健衛生用品の整備がされたとのことだが、この予算は国のガイドラインに沿った予算のみのものだけなのか。いろいろな取組がある中で、予算計上に至らなかったけれども、コロナ対策としてほかに検討した事項はあるのか。

特別支援教育課長

- 1 本来は3か月間を見込んでいたが、今回1か月延びるということで、ただ、夏休みを短縮するなどの対応も考えられるため、そういったことに代えさせていただきたい。

保健体育課長

- 2 マスクの購入方法については具体的に決まっていなくても、一般競争入札にしても、随意契約にしても、しっかりと業者選定をしながら進めていくことが大切であると考えている。休校が延長になったことによってマスクの配布をどうするのかということについてであるが、今回配布するマスクは学校で使用してもらうことが基本となっているので、休校中は、配布の必要がないという認識である。そのため、マスクの配布方法については、学校に直接配布する予定である。

財務課長

- 3 今回の補正予算案については、国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」を踏まえ、6月定例会前にいち早く対応すべき対策について編成したもので、感染症の拡大防止に要する経費を計上したところである。予算計上には至らなかったが、ほかに検討した事項としては、例えば、臨時休業中の児童生徒の学習支援や、学校再開後の授業の進め方などの課題がある。現在、学校では課題プリントの配布や授業動画のインターネット配信などの取組を進めているところであるが、更なる取組についても検討を進めているところである。

荒木委員

先ほど、マスクの購入方法はまだ決まっていないということであったが、今、何かと話題になっているので、物の品質が良くなく、配送が遅れてしまうということがないようにしてほしい。しっかりと選定基準を設けるとのことであるが、どういった選定基準が具体的にあるのか。そこまで突っ込んでやることで、迅速な配布に至るものと思う。

保健体育課長

条件には、必ず学校にしっかりと物を届けてもらうことを前提に考えていく。

柳下委員

- 1 スクールバスの運行費1億3,733万3千円について、説明の中で乗車率の高いバスに対して増便を行うとあったが、具体的にはどういうところが高いのか。
- 2 慣れた教員が同乗して生徒たちが安心できるようにしていくとあったが、教職員もコロナの問題で大変な状況にあると思うが、職員体制についてどのように考えているのか。
- 3 医療的ケアを必要とする子供、肢体不自由や知的障害の子供などいろいろな子供が特別支援学校に通っており、子供たちによって違う状況にある。先ほども質問があったが、運転手が変わって乗らないとか、環境の変化に敏感であるということについて、教員の負担が増えてしまうことも含めて、どのように考えているのか。
- 4 新型コロナウイルス感染症対策医療費6,614万円の計上についてだが、この中で、マスクや消毒液、体温計があると思うが、十分足りているのか。

特別支援教育課長

- 1 県南部、県西部の知的障害特別支援学校を中心に高くなっている。肢体不自由のバスについては、乗車率が50%以下と比較的落ち着いている。
- 2 一部の教員に負担がいくことがないよう、これから長期休業があるので、学校で十分な体制を整えるよう指導していきたいと考えている。
- 3 バスの増便については同じコースを2台で走る形になるので、比較的環境の変化に強い子供を新しいバスに乗せるなどいろいろな方法を考えながら、十分に対応していきたいと考えている。

保健体育課長

- 4 各学校における3か月分の使用量を想定して計上したものであり、十分に足りると考えている。また、非接触型体温計については、各学校2本となるが、基本的には、家庭で検温をしてもらうことが前提であるので、それを忘れた児童生徒に対して使用することを想定したものであり、こちらも足りているものと考えている。

柳下委員

- 1 教員の体制について、この点については学校で十分な体制を整えていくということだが、例えば今、保健所が大変だということで、人を増やす体制を取るなど行っているが、学校でも現在の職員にプラスして行っていくのか。
- 2 乗車率の高いバスについて、具体的にはどこの学校なのか。

特別支援教育課長

- 1 今後の検討の余地はあるかと思うが、職員を増員するというのではなく、やはり慣れた先生が対応することが一番だと考えているので、その辺は学校の体制の中で調整をしていきたいと考えている。
- 2 具体的な学校名については、所沢特別支援学校、浦和特別支援学校、川口特別支援学校、春日部特別支援学校、和光南特別支援学校、塙保己一学園、毛呂山特別支援学、所沢おおぞら特別支援学校、深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、秩父特別支援学校、草加かがやき特別支援学校、越谷西特別支援学校、宮代特別支援校、大宮北特別支援学校、三郷特別支援学校、行田特別支援学校である。

中屋敷委員

必要なものを補正予算として計上しており、これは可及的速やかに対応すべきものだと認識している。そのような中で、長期化の懸念があり、財源の部分をどう確保していくか。いろいろな考え方があり、教育局の財源に余裕があるとは私も思っていない。コロナに対する基金に、教育に資するもの、という項目を加えてもらう等の工夫が必要だと思う。今、基金の中に、医療従事者及び医療機関に対して、という項目を付け加えることはできないかというお願いをしている。そういう状況を見ると、教育に資する部分にという科目立てもしていただくと、財源として使えるチャンスが出てくるのではないか。そういう工夫を今後していく考えはあるか。

財務課長

企画財政部で基金をつくと聞いているが、企業会計からも借入れをしてつくるということで、全庁においても大変厳しい中での財源の確保と認識している。一つの案としてはそのような話も分かるところではあるが、全庁の中での確保については、個々の案件ごとに企画財政部と全庁の調整をした中で予算を付けている。なかなか厳しい折もあると思うが、どういったことができるかは、相談はしていきたいと思う。

中屋敷委員

もっともな答えだと思うが、埼玉県教育委員会として、子供たちの教育をしっかりと担保するため財政当局としっかりと交渉していくことが必要である。苦しい財政は分かるが、積み増しをお願いできる部分はあると思う。積み増しの部分を教育委員会、教育局として企画財政部としっかりと議論していくつもりはあるか。

副教育長

教育委員会としては、子供たちの学びの保障、心のケアも含めて、最重要課題だと考えている。今頂いた御意見を踏まえて、企画財政部とも真剣に議論をし、財源の確保のためしっかりと努力をしてまいりたいと考えている。

柿沼委員

- 1 不織布マスクは生徒が忘れたときに配布するとのことであったが、教師に対しての配布はあるのか。5月7日再開の場合はマスクも消毒液もが足りないと学校現場の声も聞いているので、その辺をどう考えているのか。
- 2 不織布マスクは各学校50枚とのことだが、本当に足りると思っているのか。
- 3 特別支援学校には、42,000枚とのことであったが、吹上秋桜高校や戸田翔陽高校のような学校について、どのように考えているのか。

保健体育課長

- 1 教員用マスクについても、児童生徒と同様に国から配布される2枚に加え、更に1枚配布する予定である。
- 2 4月13日以降、国から家庭に布マスクが配布されるので、学校にはそれを着用して行くことになる。不織布マスクは、布製マスクを忘れてしまった児童生徒についての計算になる。
- 3 基本的には全日制の高等学校と同様に足りているとの考えである。

柿沼委員

国からマスクが配布されるということであったが、県にもこの間、行田の方からマスクの寄附があったと思うが、その辺のマスクをどのように使おうと思っているのか。使い捨てのものが2万枚とか、それ以外にも県には教育関係の方に使ってほしいという寄附があると思うが、それはどのように使うつもりか。

特別支援教育課長

国からということではないが、台湾から200万枚のマスクが日本に寄贈されて、そのうち130万枚が全国の特別支援学校へ送られている。埼玉県内においても、学校によって、例えば医療的ケアが必要であるとか肢体不自由であるとか、そういう学校で、若干枚数は違うが、多いところで1800枚、少ないところで900枚のマスクを頂いており、有効に活用していきたいと考えている。

武内委員

マスクについて、県立学校には国から直接家庭に配布されるものに加え、今回の補正では、更に1枚配備するということがよいか。また、財源は何か。

保健体育課長

国からは、家庭に配布される布マスクとは別に、各学校の児童生徒及び教職員にも2枚ずつ配布される。今回の補正予算では、それに加えて、もう1枚配布するものである。財源については、国からの配布分は全額国の負担、補正予算として追加する1枚分については、国が2分の1、県が2分の1の負担である。